

国指定天然記念物

やわたはましおおしまのしゅーどたきらいとおよびへんせいがんるい

八幡浜市大島のシュードタキライト及び変成岩類

所在地：八幡浜市大島須本

管理団体：八幡浜市

指定年月日：2004（平成16）年9月30日

解 説：

大島は三波川変成岩（北側）と、これにのし上がる片麻岩を主体とする厚さ約200mの大島変成岩層（南側）からなる。地大島は主として白亜紀真穴層からなる。大島変成岩類は地下深部の岩石層が露出したもので、日本列島の基盤をなす岩層や構造を直接見ることができる。

大島変成岩層の中には、5～6千万年前に形成されたと考えられる大規模なシュードタキライト断層帯が存在する。シュードタキライトは、地下深部で断層が高速で動き、地震が発生するときの急激な岩盤のずれによる摩擦熱で岩石が溶け、その液が固まった黒色ガラス質の脈状の岩石で、「地震の化石」とも呼ばれる。シュードタキライト断層帯は海岸に沿って5帯ある。わが国では最大規模であり、大島変成岩類とともに地質学的に極めて貴重な岩石類である。

（「八幡浜の文化財」編集委員会編 2015『八幡浜の文化財』八幡浜市教育委員会 より引用、一部改・加筆）



